

// 沖縄協定の実質化への第一歩一関連法案粉碎し、//

# 自衛隊兵を阻止しよう。

## 反戦通信

号  
1971  
12月15日

反戦会議  
事務局  
(毎日1日、15日発行)

定価 20円

全部の労働者、学生、高校生讀者の、  
昨年のゴザ人民の決起から一年を迎えた今日、「本土レ・沖縄返還」の闘いは、二月十、十一月闘争の成果を踏み固め、沖縄「協定」一関連法案新碎／自衛隊兵派遣反対／佐藤政府打倒へと更に姿を進んでいる。

1 「ゴザ人民の決起は、「ヤル年」沖縄返還」「たとへぐる権力再編を尖兵」と出した

昨年のゴザ人民の決起は、60年代の島ぐるめ復帰運動を、69年11月の日本共同声明において「沖縄返還」が發表されるや、分解せざるを得なかつた由で、沖縄における階級闘争の轉換点を「不

明」であった。ゴザ・国頭・美里へと続く一連の裏力闘争は、五、一九全島ゼネスト風には十一、一〇全島ゼネストに至り、戦後の闘いの一つの極限へと登りつい、今や沖縄における闘いが一大転換点に達してお

り、沖縄内部に急速な階級意識の分解をひきおこし、階級闘争の激化を、沖縄人民の怒りの大爆發を呼びあつてている。そして、

命同様の再編強化としてある。

60年沖縄返還編は、日本國

主義にとつて不可欠の任務である。

里の一連の闘いは、いつたく裏力闘争とし、一見、日

2 自衛隊兵を阻止しよう。

ゴザ人民の決起以来、沖縄人民は、文書通り日本帝國主義を裏

感せしめる斗争を展開してきた。

日開・佐藤政府は、衆院特別委員会議において沖縄「協定」さ

れどもしく、所知した事実として

じようがない。本会議がある。し

かず、60年代のあの屋良を象徴とする沖縄の「革新」の運動は、あの十月十八日の衆院特別委員会議にて、「本土レ・沖縄返還」を定し強行採決に対し、何らなすすべもなく、所知した事実として

ござります。本会議がある。し

と佐藤に請願書を手渡したのに象徴して見られる如く、今や沖縄の階級闘争を「ブルジョア民主主義運動へと押し込み、更なる発展の桎梏」とさえなつてゐる。

サニラニシスコ条約に伴ううある事を見抜くなれば、日米反対

軍事改定が、中国、朝鮮、そして、日本における軍事運動を

正義せんとする反革命の要として

南北アメリカの特権利害が

なつてゐる。基本的に米軍駐屯

の質を持つた闘いであるといつて

いる。その如く見える闘いは、日

米反革命同盟の平均的再編に直向

け、その闘いは、誰が支配者

あり、誰が支配者になつていて

いるのかという権力の問題を突き

ださざるを見るくなり、上方の國民統合と併存するものである。

さて、その闘いは、誰が支配者

あり、誰が支配者になつていて

いるのかといつてやつてきたりの意

味で、外の如く見える闘いは、日

米反革命同盟の平均的再編に直向

け、その闘いは、誰が支配者



貞直上行白筆也

今秋から冬にかけて、ヒューリック大手私大二十数校で学業成績上位の動きが強まっている。また、國公立大学においても、これらは就職率向上攻撃の戦略と位置づけられ、三十

これが次の通りに整理せらる。

① 直接的である。すなは、「赤軍財政」の人民への転嫁である。「十全の鐵道」の建設であつて、資金を払うのは日本

朝鮮人學校に対する規制——「外國人學校禁制」の實質の北洋の意圖と北洋の政策である。

② 云々く申で不可欠となる。

前記の事の上に、漸々と人民たるの意識の一つ強化として存在する。一方財政の一端を担つて居るので、ナーフの彈圧は大蒙難へ入れ、鐵柵など学生運動部活動家、革命的高校生の縛めだしに至り、受験での内申書重視に因る反対運動も、高麗道重の月収、学生の精神的打撃が強化である。

あり、それだけに、第3章の庄  
毅と国内の帝国主義的苗條なるに  
對する其の立場を以てしむるが如きは、  
吾の學業道が大變な風景でござる。

○佐藤政府はそのための突撃内閣であり、支持二〇% 不支持五〇%といふ戦後最低の不人気の中で、全部の労働者、学生  
われに三重塹第一大工強三川への結集を訴える  
れる、補助「国主義

1. 因結小屋死守！  
「公用を許さず」  
告報  
三  
見  
大隊猛烈のヨハ。暴虐非道の限りを  
尽し、多くの労働者、学生を不当逮捕  
し、不憲にしてきた、権力の苗大々機  
動隊に対する、「闇う意志」こそ一矢に  
懸録しての人民の怒りの大爆發であつ  
た。それやえ権力は恐怖し、狂暴の  
彈圧を加えてモソイる。

連日、三里塚全域に機動隊が徘徊し、櫻井づけしを行ひ、また、私服を徹定した闇さ込みを続けている。大木ふわさん宅の裏山にあるわな団結小屋に泊しても、二度の不當搜查を行ひ、日常的に機動隊が私服をやつてきている。一方、大木ふわさん宅を収容して以

附、東関東自動車道の工事が急ピッ  
キで進行し、われわれは唯一の水源と  
して利用している湧き水がどうなるか  
心配なところです。また、公園は、わ  
れわれの団結川屋に電気をひくため、

天津共同墓地公用許可證

モ居廻つ続けてゐるだ。自衛隊  
四次防計画、冲縄の侵略前線要地  
化、新全國総合開発計画、教育の  
帝國主義的再編寫でと、国内香港  
に急ピッチで進升、帝國主義の方  
面の育成（マル生、I.M.F.・etc.  
など）、刑法改憲（保安处分など  
）入管法、さらニ国民統治監視制

等々と、アロ-セタリヤ人民の分断支離、先進的成分の圧殺に必死となる、ていう。今秋、三里塚一辺縫諸子争の爆発は、日帝のこの路線に真向うから挑戦するものであった。それゆえに、廃除去攻撃を含めた行動者人民、学生へのすゝきじり反革命攻勢がなげつれていたのだ。

のに明白である。

たゞ、第一に、「抑揚なら早業へ」という思想を乗り越りや、学園への同じことを「学園主義」には一切ヨロシムハいのそまた、明るく反である。学園向上攻撃の意図を裏むる「合理化」「帝国主義的兩編」一般に詰り込み、それに学園

の内情極性を指し、現在の緊要の任務——日帝の侵略反革命阻止へ率いていくことである。全行司運動の敗北は何よりも運動女昂揚し多くの学生を巻きこみながら、自然発生性にのされ、強大な反革命の前に運動が瓦解、分散していくのを阻止してやるが、たとえ主張の指道の弱さであり、これを克服してこそ、今冬の「學費値上げ阻止斗争に勝利でさるのだと。

六日と七十日まで續けて、シソをかけて、これをに葉せんとしている。しかし、四千メートル踏道は反対同盟岩山修塔によって、三十五のメートルに短縮され、ハイライマーは住民の反対運動の前に差工をできず、采石六日間巻きの展望など全くない。したがつて、現時忠臣の对馬の軸は状況の中でも、われわれは、四千メートル走路を完成させての外、否か、一番轟を飛ばさうのを否かである。その轟をどうし、一期工事、盤音成果を踏き、その地平を問題を語るのは全く反動的である。ふとなく、新たなヨリを幸るために、田舎山屋を死守し手段を用いて、「一期工事完成を阻止」し一番轟を阻止せよ、第二次取用に方

黒工一事一四四

る。第一期工事を終り、反  
ハラダ監査問題に対する周辺  
伝者報一揆暴乱時に押し入  
れたのである。

本年四月以來、ヒューラ・パキス

タ、東部国境をばらんじ小規模戦

闘へて返して一時印・パ西国軍

は、十一月下旬以降、東西パキス

タ・国境は既往へと戦火を拡大

し、十一月に入つて、印パ西国政

府とともに非常事態宣言、戰争状態

宣言と發して、一九四七年四月八日

、六五年九月三十一日戰争以来の大

規模な戰争へと事態が發展してい

ることを認む。運動員三十、全面

戰争へと終了した。十一月十三日

現在、ヒューラは庶民と「腰くばれ

ル解放軍」は東北ナシタ、ハニ中核

都市タシタに進撃を抜け、パキ

スカ、西国軍はドリニ「頭出し」

する所落ち前であり、隨處被直

ちに現地ニ「バーストライ」呼んで、

我ハニ「敵意を露ひかにすの日本」

## 2 イ・ヒーラ・反動派の「バーストライ・反革命戦争」

奥山江、一の本年三月以降の、キ

スカ、「内戦」と、やがて米

生の難民西遷を口撃しし紳士

拡張ぬるヒューラ・ヒー政府

の、一の戰争に及ぶる懸念は盛

烈たは思ひどりあつたのである。

即ち、今回の戰争は、眞無視地

時代のヒューラ・ヒー政府に、

「宗教的対立」をヒートヒーに起

る所の紛糾統治の一端を窺ひ得と指

つた。過去二度二度つ

ヤヒア・カー、一任ロムヘの血の強圧

昨年十二月七日パキスタン・西印

度底と無期延頃し、一の過激抗

議の東パキスタン・住民への強圧

を強化し、本年三月二十五日以降、

東パキスタンの自治権拡大(外交)

と軍事だけを中央政府の管轄事項

の運営を投入して大规模の西

タの後ろ、公然と重ねナシタ

の政権と握り、独立以来の「基

本原則」した連邦制は強圧時に百

姓と廻る政治暴力合法化され

た。アフリカ連盟が、国民議会、州

議会双方で過半数を獲得し、東パ

キスタン住民も田パキスタンの出

政府への政治的・経済的抑圧

を強化し、西パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

を強化し、西パキスタンの出

の獨立以来、東パキスタンは一帯

の経済的に壓迫・収奪されてき

た。獨立以後、東パキスタンの行

政の手で行われ、又、一九五

年アコム・カー、一の軍事クーデ

タの後ろ、公然と重ねナシタ

の政権と握り、独立以来の「基

本原則」した連邦制は強圧時に百

姓と廻る政治暴力合法化され

た。アフリカ連盟が、国民議会、州

議会双方で過半数を獲得し、東パ

キスタン住民も田パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

を強化し、西パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

の独立以来、東パキスタンは一帯

の経済的に壓迫・収奪されてき

た。独立以後、東パキスタンの行

政の手で行われ、又、一九五

年アコム・カー、一の軍事クーデ

タの後ろ、公然と重ねナシタ

の政権と握り、独立以来の「基

本原則」した連邦制は強圧時に百

姓と廻る政治暴力合法化され

た。アフリカ連盟が、国民議会、州

議会双方で過半数を獲得し、東パ

キスタン住民も田パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

を強化し、西パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

の独立以来、東パキスタンは一帯

の経済的に壓迫・収奪されてき

た。独立以後、東パキスタンの行

政の手で行われ、又、一九五

年アコム・カー、一の軍事クーデ

タの後ろ、公然と重ねナシタ

の政権と握り、独立以来の「基

本原則」した連邦制は強圧時に百

姓と廻る政治暴力合法化され

た。アフリカ連盟が、国民議会、州

議会双方で過半数を獲得し、東パ

キスタン住民も田パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

を強化し、西パキスタンの出

政府への政治的・經濟的抑圧

つてゐる。

また、

我々は

その

主張

と、ソ連

の連

邦

の連

つてゐる。

また、

我々は

その

主張

と、ソ連

の連

邦

やん：「——」  
吉田新輔：「おう。」  
吉田新輔：「おう。」

卷之三

10

（二）「我」的「我」，是「我」的「我」，是「我」的「我」。

修正主義社会主義の長、即ち（セベク）道吉、越田、井國慶の原則の下、舊國の團結

井戸の水は、さういふもので、人間の命を保つものだ。人間の命を保つものだ。

ア、ねね日本電気的左翼内部に  
来て、印、輪郭、ハドウ三  
五、六、七、八、九、十、十一、  
十二、十三、十四、十五、十六、

の裏の倒錯の現象である。左の圖は、英國と  
する信託、反華  
争争反対の。

アヒヤカーン、アヒヤカーン、アヒヤカーン

「うる東北キズナ」の住民への血

「口」キ一品又續草鶴の根  
在本腰上に改變し、「ヘン」解  
口 東京ニキヌタ、  
往風の且生(共)

「我に付け因に誠算、バーチャラ  
ニ」最初への能復してあられた  
御好石の御傳承御歌、「文庫

「ミスター」の名前を尋ねるのもよし。  
日本共産主義運動の日本書籍  
部書籍で、その中でも最も人気のある  
本がこの本だ。

万國の活力を動かす  
階級と被抑圧  
階級。

國會の口上アーティア  
好、御用意、地主の反動政黨  
議院に立つて、政敵のトーリー  
の手に負ひて、



卷之三

レーベンの「藝術の發展」によれば、藝術の發展は、本來は社會的運動の發展と並んで進むべきである。現在の藝術の發展は、實に社會的運動の發展と並んで進むべきである。

我已过大五十！廿六之庚辰七十而一，壬子之癸卯七十一也。壬子之癸卯，全尸葬于西山之南，即其地也。

無趣じ来たる。口二三、衣類の——でやんと、こどり口。我の本懸念はやつれの懸念でやつれの懸念である。これ等の現象を因縁とするもの、シテシタハ、唐と作る事無事無く思ふ事はない。

ついでに國立の「精神衛生研究所」のやへの問題に次へ問題となる。精神衛生研究所は、精神衛生の研究と、精神衛生の普及に主なる研究機関である。

このハントレーナーは、自分に任された。因縁これらのことに対する反抗心が、場所、種々の環境で醸成された。充電装置(充電池)RCによって、根本的に何が何でもない事実、結果

日本に於けるアーチテクチャの歴史は、明治時代から始まり、大正時代には建築技術が確立され、昭和時代には建築文化が発展した。この間に、アーチテクチャは、建築物の外観だけでなく、内装や構造、機能など、総合的な視点で評価されるようになっていった。

敵の工続へ連絡するのを聽取れ  
（次回）